

研究例会のお知らせ

2018年6月29日

主催 日本科学者会議（JSA）食糧問題研究委員会

後援 パルシステム生活協同組合連合会

生活協同組合パルシステム東京

「種子法廃止とこれからの日本の農業」のお知らせ

日時：2018年9月1日（土）午後1時30分～4時30分

会場：日本労働者協同組合ワーカーズコープ連合会会議室

〒170-0013 豊島区東池袋1丁目44-3 池袋ISPタマビル8階：地図を参照

テーマ：「種子法廃止とこれからの日本の農業」

趣旨：戦後の食糧困難期に、米（稲）・麦・大豆の種子の安定した生産と普及を都道府県に促し、国家と都道府県の責任を明らかにした種子法は、国民の食糧安全保障の出発点でした。それが2017年2月に民間企業の参入推進を理由に突然廃止となりましたが、背景にはTPP11などグローバル企業に対応する国内法整備があります。

2018年3月末で種子法は廃止となって、全国にある多数の公共品種を守る法律がなくなり、日本の農業が根底から大きく変わり、その結果として私たちの食にも多大の影響が出そうです。このため農業生産者だけでなく、消費者を含め国民全体の大きな問題です。

そうした現状や背景について詳しい解説を受け、参加者と一緒にこれからの日本の農と食について話し合います。

講師 山田 正彦（やまだ まさひこ） 弁護士・元農林水産大臣

1942年生れ。長崎県五島で牧場や肉屋の経営の後、弁護士としてサラ金問題に取り組む。

1993年衆議院に初当選し5期務め、農林水産大臣のとき農業者個別所得補償を実現。

2015年1月「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」設立・弁護団、共同代表。

2017年7月「日本の種子（たね）を守る会」設立・顧問。著書に『「農政」大転換』『TPP 秘密 交渉の正体』『アメリカも批准できないTPP協定の内容は、こうだった！』など多数。

*近著『タネはどうなる?!-種子法廃止と種苗法運用で-』（定価1300円）を会場販売
参加費：1人500円 JSA会員も非会員の方もぜひご参加ください。

申込先：日本科学者会議（JSA）Tel 03-3812-1472 E-mail zenkoku@jsa.gr.jp

会場 日本労働者協同組合ワーカーズコープ連合会 会議室

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1丁目44-3 池袋ISP タマビル8階

JR 池袋東口北を出て、大塚方面の線路に沿った道に入り、線路に沿う公園が途切れるところにある「秀山荘」(パークサイドビルで1Fはファミリーマート)に沿って右折しすぐ左側。徒歩約5分



池袋ISP タマビル付近の詳細図は下記

